

「KOBE しあわせの村ユニバーサルカレッジ」

～障がい者の豊かな生涯教育の場を目指して～



概 要

1. 経緯

- (1) 文部科学省が公募した「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」に応募し令和3年度より受託
- (2) 学校卒業後の障がい者が興味関心の幅を広げる様々な教養を身に付けるとともに、主体性を育み、仲間づくりを実現することを目的に、令和3年7月に開講

2. 対象

原則として障害者手帳をお持ちの18歳以上の方



運営の特色

特色１ 興味関心を持ちやすい講義内容

- (１) 人文学、自然科学、表現・芸術など幅広い講義テーマ
- (２) 講義において、視覚的なスライドを用いたり、クイズや質問を取り入れるなど受講生の理解を助ける工夫

先生の話が分かった	先生の話に興味を持った
89.8%	85.2%

| 参加者の反応（昨年度アンケート結果より） |

特色２ 部活動を通じた仲間づくり

しあわせの村の施設を活かした部活動８種目から選択

運動系	文科系
ダンス	調理
卓球	鉄道研究
スポーツ	和の世界
テニス	
ボクシングフィットネス	



部活動は楽しかった	部活動の仲間と仲良くなった	部活動をずっと続けたい
96.2%	88.5%	73.1%

| 参加者の反応（昨年度アンケート結果より） |

特色３ 参画するスタッフの多様性

１. 高齢者がスタッフとして参画

- ▶ 神戸市シルバーカレッジ卒業生を中心とした「NPO法人社会還元センターグループわ」が参画
- ▶ 設営、登下校案内、講義中の補助など、一緒に楽しみつつ、困ったときには寄り添いサポート。



２. 受講生と同年代の障がい者がスタッフとして参画

- ▶ 市内の障がい者就労継続支援事業所(B型)運営事業者の「㈱ライフ・シンセリティ」が参画
- ▶ B型事業所の利用者(研修生)である同世代の若者が受付や設営スタッフとして参画。時には部活動や交流行事と一緒に活動し、相互の交流を図る。
- ▶ 同事業所の支援員が受講生の様子にも細やかに目配り。



令和3年度事業実施の成果と課題

- ①職場でも家庭でもない第三の居場所・新たな人と人の出会いの場になった。
 - ②職場や事業所の人が受講生の新たな一面・可能性に気付く機会となった。
 - ③スタッフ自身が気づきを得る機会となった。
- より多様な人が・一緒に 学ぶことを可能にするための
情報 ・ 機会 ・ 適切な支援 の重要性
- 事業の実践を活かし、障がい者が街に出て、地域の人も障がいを理解し、教えあう・支えあう状態＝ソーシャルインクルージョンを目指す。（文部科学省提出 令和3年度成果報告書より抜粋）

令和4年度年間スケジュール

年間スケジュール	
6/11 (土)	・開講式 オリエンテーション ・特別講義（久元喜造 神戸市長） ・講義 人類の進化(国立民族学博物館 信田敏宏教授)
7/9 (土)	・講義 日本の鉄道の歴史と未来 (JR西日本あいウィル 勝田素乃子取締役) ・講義 宇宙を旅しよう(和歌山大学観光学部長 尾久土正己教授)
8/27 (土)	・特別講義「ドローンの描く未来」(国際ドローン協会)
9/3 (土)	・講義 健康系講義(神戸大学 高田哲名誉教授) ・講義 神戸の水産・海の生き物(神戸市立須磨海浜水族園)
10/15 (土)	・講義 しあわせの村で野外活動(岡山大学 池谷航介准教授)
11/26 (土)	・講義 オリンピアンが語るスポーツの力とは？ (小林 祐梨子選手 北京オリンピック陸上日本代表5000m)
12/17 (土)	・講義 クラシック音楽にふれる (石田さと子氏 サクソフォーン奏者)
1/14 (土)	・講義 鉄腕アトムとアニメーション (手塚治虫プロダクション 清水義裕取締役)
2/25 (土)	・講義 神戸の歴史と文化2(田辺真人園田学園女子大学名誉教授) ・閉講式

公益財団法人こうべ市民福祉振興協会（所在地：兵庫県 神戸市）

事業名	KOBEしあわせの村ユニバーサルカレッジ
主な連携先	神戸市教育委員会 神戸市福祉局 等
主な対象	知的障がい者(希望者には障がい種別に関わらず対応)

事業の趣旨・目的

- ①社会的自立に向けた知識、一般教養を身に付ける生涯学習の場の実現
- ②学生が自らの主体性を育み発揮する生涯学習の場の実現
- ③社会性を育み仲間づくりを実現する生涯学習の場の実現

学習プログラムの内容

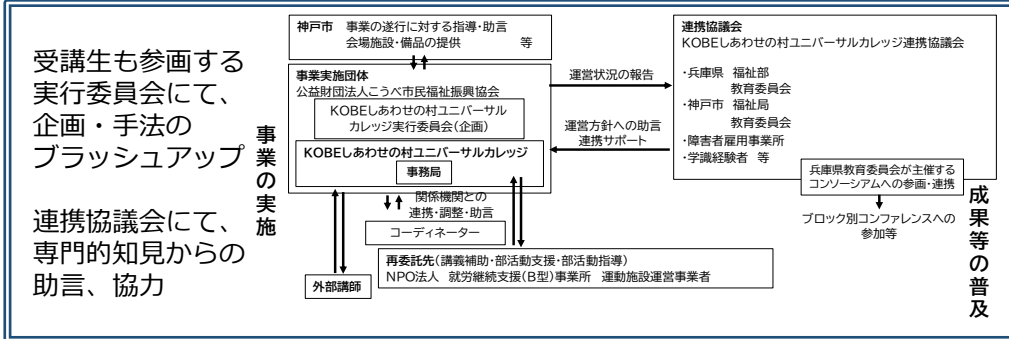
- ①多彩なテーマをその道のプロが講義 →興味関心の幅を広げる
- ②受講生自主企画（クリスマス会）や部活動種目の選択、研究発表会（2年のみ）の実施 →自主的な参加
- ③部活動 →仲間づくり
- スポーツ系：ダンス テニス ボクシングフィットネス 卓球 スポーツ ミニサッカーやドッジビー等
- 文化系：調理クラブ 和の世界（茶道・お琴等） 鉄道クラブ



その他研究の詳細など

KOBEしあわせの村ユニバーサルカレッジ ウェブサイト
https://fukushi-action.com/employment_support/universal_college/

事業実施体制



研究の成果と課題

- 学びの機会の創出
→ 42名の受講(うち通年39名(1年15人、2年24人)・スポット3名)
※障がい種別や程度に応じた適切な配慮、及び提供講座の規模等について令和3年度から引き続き研究する。
- 動画・イラスト等を使用し視覚支援に配慮した資料や、実技・実習、クイズや質問タイム等双方向性を意識した講座運営などの手法の研究
→多様なテーマであるが、毎回興味関心をもって受講できている。(平均78.3%(4回終了時点)が毎回のテーマに関心を持ったとアンケートに回答)
- 主体性や「学びたい」思いの刺激
→受講生の自主企画行事や研究発表会を実施予定
- 仲間づくり・コミュニケーション
→運営スタッフには高齢者、同世代の障がい者が参画しており、今後大学生にも参画をいただく予定。受講生同士、あるいは受講生とスタッフなど多様な人々との交流を通して社会性を育み、仲間づくりを実現させたい